

ICT活用による生産安定

■背景とねらい

南信州地域では、きゅうりを基幹品目として新規就農する生産者が増加傾向にある。その中で、近年の急激な温度変化や連続降雨等の気象環境により、病害虫の発見や生理障害の判断が遅れ、収量や品質の低下につながるものが課題として挙げられる。

そこで、生産上問題となる病害虫や生理障害を現場で正確かつ迅速に判断し、的確な防除等につなげることを目的として、昨年度から「病害虫電子図鑑」を作成しており、生産者に活用してもらっている。

■本年度の取組と成果

1 病害虫電子図鑑の内容

電子図鑑は、生産者がほ場で確認ができるよう、スマートフォン等のモバイル機器に保存して持ち歩くことを想定し、病害虫等の特徴や防除対策、発症ステージごとの画像を一つのファイルとして編集したものであり、そのファイルをホームページに掲載している。

昨年度の掲載病害虫は、病害8種、虫害8種であったが、各2種追加し、それぞれ10種とした。また、今年度から新たに生理障害5種を掲載した。病害虫や生理障害の追加や画像の追加・更新を重ねる予定である。

2 掲載画像の収集

重点指導対象者の巡回時や、要請活動におけるきゅうり農家巡回時に写真撮影を行うとともに、県関係機関から既存画像の提供を受けながら、画像収集を行った。

3 生産者への周知

重点指導対象者の巡回時や7月7日開催された南信州きゅうり青空教室にて、実際にホームページからファイルをダウンロードしてもらうことで活用促進を図った。また、JA等出荷団体に依頼してきゅうり生産者に広く周知を行った。

4 JA技術員への研修

生産者の課題解決には、JAとの連携が不可欠である。植物防疫誌本年8月号において「きゅうり病害の見分け方」が掲載されたため、JA野菜技術員へ情報共有するとともに、同記事に掲載された分生子画像を活用し、光学顕微鏡を使った分生子による病害判定の研修を行った。支援センターとJAが密に連携を取り、意欲的に光学顕微鏡を活用し、的確な防除に向けて指導していく体制づくりに努めた。



JA技術員への研修の様子

5 生産者、JA等関係者からの意見聴取

2月3日のきゅうり新規栽培者交換会において、病害虫電子図鑑の実際の活用状況についてアンケート調査を実施した。21名に回答をいただいた結果、病害虫電子図鑑を認知している方が71%、実際に活用している方が52%であった。活用している方からは、病害虫を撮影して診断できるシステムを希望する声が多く挙げられた。

■今後の課題と対応

病害虫電子図鑑を有効に活用してもらうために、引き続き掲載する病害虫や生理障害の画像収集と内容の拡充を行っていくとともに、活用者が増えるよう幅広く周知を継続する。

また、生産者がほ場で顕微鏡を用いて分生子等の観察し、病害虫の迅速な診断ができる体制づくりを検討し、きゅうりの生産安定につなげていく。

(地域第三係：坂口 冬樹)